

# 諏訪湖クラブニュース

## NO. 20

	● もくじ ●	● 巻頭挨拶 「平成26年度総会が開かれます」
	● 岡谷市のまちづくりの最近の動向	● 下水道再生エネルギー活用施策 消化ガス発電の開始について
	● 第25回諏訪湖チャリティーウォーク開催趣意書	● 信州ネットSUMAの活動
	● 地域に飛び出す県職員 ～地域に飛び出す公務員アワード受賞者インタビュー	● 身近な水環境を調べよう！「第11回身近な水環境の全国一斉調査」参加のお願い
	● 総会案内・理事会報告	

## 平成26年度総会が開かれます

会長 沖野外輝夫

平成26年の正月が開けて以来、全国的に天候が不順で、せっかく期待していた3年連続の御神渡りも不発、諏訪地域の人たちにとっては何となく締まりの無い日が続きました。おまけに、3月に入っては大雪に見舞われ、農業用ハウスが壊れたり、交通が混乱するなど、今年の先行きが心配される新年の幕開けでした。それでも、お彼岸が過ぎれば何となく春めいてきて、梅のつぼみも日に日に大きくなってきています。春の日差しを浴びながら土色の中に緑が広がっていくのを眺めていると年の初めの暗い思いも吹き飛び、今年も楽しく一年を送れる希望がわいてきます。何事も気持ちの持ちよう、その日その日にやるべきことをやるのが大切だと、今更ながら思いを新たにしています。

故松井覚進氏が取り組んで居られた「水循環基本法」が国会を通ったという記事が3月27日の新聞に報道されていました。人間だけでなくすべての生物にとって重要な水の保全がようやく第一歩を進められる段階になったことは故松井覚進氏をはじめとする関係諸氏の地道な努力の結果ですが、諏訪湖クラブの賛同もその小さな一助として加わっていたことを誇りに思います。これから先の活動にも諏訪湖クラブとして積極的に加わり、故松井覚進氏の遺志を活かしていきたいと思っています。

平成26年度の総会では役員の改選が議題としてあげられます。今期で役員を退任される方、継続される方、そして新規に役員として活躍していただく方、それぞれにお忙しい中、時間を割いてクラブの活動継続にご協力をいただき、あるいはさらにご協力を賜ることになりますが、そのご厚意に感謝の意を表させていただきます。中でも、クラブの設立当初から副会長をお願いしてきました故小松道俊氏のご逝去されたことは残念であり、諏訪湖クラブにとって大変な痛手ですが、ご生前のご支援に心から感謝の意を表させていただきます。小松道俊副会長の地域医療に対する熱意と実践は豊かな生活を目指す地域づくりの基礎となるお仕事で、これからの地域づくりに同氏の遺志を引き継ぐことも諏訪湖クラブの役割の一つと考えます。皆様のさらなるご協力をお願いします。

平成26年は諏訪市とアメリカ・セントルイス市との姉妹都市締結40周年に当たります。諏訪市と諏訪国際交流協会ではセントルイス市の関係者と協議して各種の40周年行事を計画中です。本年6月にはこれまで隔年で行われてきたパークウェイ・サウス高等学校の生徒さん10数人がホームステイして諏訪市内の高等学校に体験入学、交流を深めます。9月早々にはセントルイス市の植物園内日本庭園で行われてきた「ジャパニーズ・デー」の行事に参加、10月下旬には諏訪市長を中心に諏訪市内の有志がセントルイス市を訪問、姉妹都市締結40周年記念行事開催、そして、毎年行われてきて諏訪市内高校生のパークウェイ・サウス高校での体験事業などです。今年はセントルイスの一般市民の方々による個人旅行もあるかもしれません。何かと物騒な話題の多い最近の世界情勢ですが、市民レベルでの国際交流を進めることでいくらかでも世界の平和に貢献できることを期待しています。

# 岡谷市のまちづくりの最近の動向

## ～市民参加型事業の紹介～

岡谷市・建設水道部・都市計画課  
岩垂 和典

岡谷市では、都市計画マスタープランの改訂に着手しています。市が取り組む都市計画は都市計画マスタープランに即して進められていかなければならないことになっており、まちづくりの基本となるものです。

岡谷市では平成11年度に策定しましたが、既に策定より10年以上が経過し、社会情勢の変化などをふまえ見直しの時期にきています。

岡谷市では、今回の改訂にあたり、市民参加や市民との協働を重視して進めています。以下にこれまでの取り組みを簡単に紹介します。

平成23年度は、まちづくりに対する関心を高めてもらおうと「まちづくりシンポジウム」を開催しました。工学院大学建築学部・倉田直道教授（諏訪市ご出身）の基調講演と様々な立場の市民4名によるパネルディスカッションを通じて、岡谷のまちづくりに関し、市民感覚に基づいた公開討論を行いました。約160名が参加しました。

平成24年度は、まちづくりに関する学びの機会として全3回の「まちづくり連続講座」を開催しました。第1回は、誰にでも親しみやすい素材として映画を選び、岐阜県恵那市市民が制作した「ふるさとがえり」を上映しました。一人一人にとってふるさととは何かを考えさせられる内容で、これまでに全国で1,000回以上上映されている作品です（蛇足ながら、この映画の主演は、諏訪市ご出身の俳優・渋江譲二さんです）。

第2回は、ベストセラー『デフレの正体』の著者である藻谷浩介さん（日本総合研究所主席研究員）をお招きし、岡谷市や諏訪地域のデータを引用して、地域の将来予測となすべき対応を学びました。

第3回は、岡谷市蚕糸博物館・美術考古館の協力も得て、岡谷のまちの成り立ちなどを収蔵する歴史資料等を用いながら学びました。3回の合計参加者数は300名を超えました。

この後、「まちづくりワークショップ」により、岡谷のまちの将来像に対する市民の提言を考えていただきました。将来像といっても、「〇〇に道路をつくりたい」

「△△に公園が欲しい」「こういう施設が良い、悪い」といった単なる要望型や批判型のものではなく、自分達が「将来どんな暮らしがしたいのか」をもとに、そのために必要なまちのイメージを共有することに努めました。20代から80代まで延べ25名の市民が3班に分かれ、半年間にわたって熱心に議論し、「私たちが目指す暮らしとまちのビジョン」として提言していただきました。

平成25年度は、市民発意のまちづくり活動の可能性を探る目的で、学びとワークショップを行いました。学びは「まちづくり講座2013」と題し、市民手作りマップの手法等でまちの活性化を図っている藤田とし子さん（まちとひと感動のデザイン研究所代表）の講演と愛知県高浜市の子ども達が演じた映画「タカハマ物語」を上映しました。2回の合計参加者数は100名を超えました。

ワークショップでは、述べ20名の方々にまちを元気にする市民活動を考えていただきましたが、アイデアや意欲はあるものの、具体化するノウハウなどが無いことも分りました。そこで、これらを学ぶ目的で、ソーシャルデザインを扱うウェブマガジンの小野裕之さん（greenz.jp副編集長）、下諏訪、塩尻で既に活動されている住民の方々、遊休不動産のリノベーションを手掛ける清水義次さん（アフタヌーンソサエティ代表）をお招きし、お話を伺いました。これも、行政にお任せでなく、講師の選定、告知活動、当日の運営などに関し、ワークショップ参加メンバー有志が参加して進めました。これらの聴講者は合計150名以上となりました。

平成26年度は、都市計画マスタープランも策定委員会を組成し、ワークショップでの提言等もふまえながら、策定作業が本格化します。

一方、市民まちづくり活動も、具体的な活動チームづくりが始まろうとしています。

いよいよ、種が芽生える時期を迎え、市民と行政とが「車の両輪」となり、岡谷のまちづくりを盛り上げていけるよう、今後も注力していきたいと思えます。



『私たちが目指す暮らしとまちのビジョンと提言』は寸劇方式の班もありました（2013年5月）



平成25年度のワークショップは旧市庁舎も使いました（2013年10月）

# [下水道再生エネルギー活用施策] 消化ガス発電の開始について

八幡 義雄

長野県下水道公社は、下水道事業に関連して再生エネルギーの活用について取り組みをしてきました。ここで私が勤務するアクアピア安曇野で4月1日から消化ガス発電の取り組みが始まりますので紹介します。

アクアピア安曇野は、梓川と高瀬川に囲まれた安曇野市と松本市の梓川地区を流域とする処理人口約10万人、処理量は日平均2万1千トンの中規模な下水道処理施設です。

ちなみに梓川は、奈良井川と合流して犀川と名前を変えますが、この処理場で処理された下水の放流口は、犀川の白鳥飛来地で有名な犀川白鳥湖の西側に位置しています。汚泥が毎日約150トン発生しますが、平成20年2月に卵形消化タンクが完成し、脱水機により発生する脱水ケーキは約9トンと4割減少しました。同時に臭気濃度も減少し環境の改善に寄与しています。

長野県の他の流域処理場と異なり、この処理場は脱水ケーキを焼却する設備がないのでセメント工場に搬入し、そこで焼却しセメントの原料としてリサイクルされています。

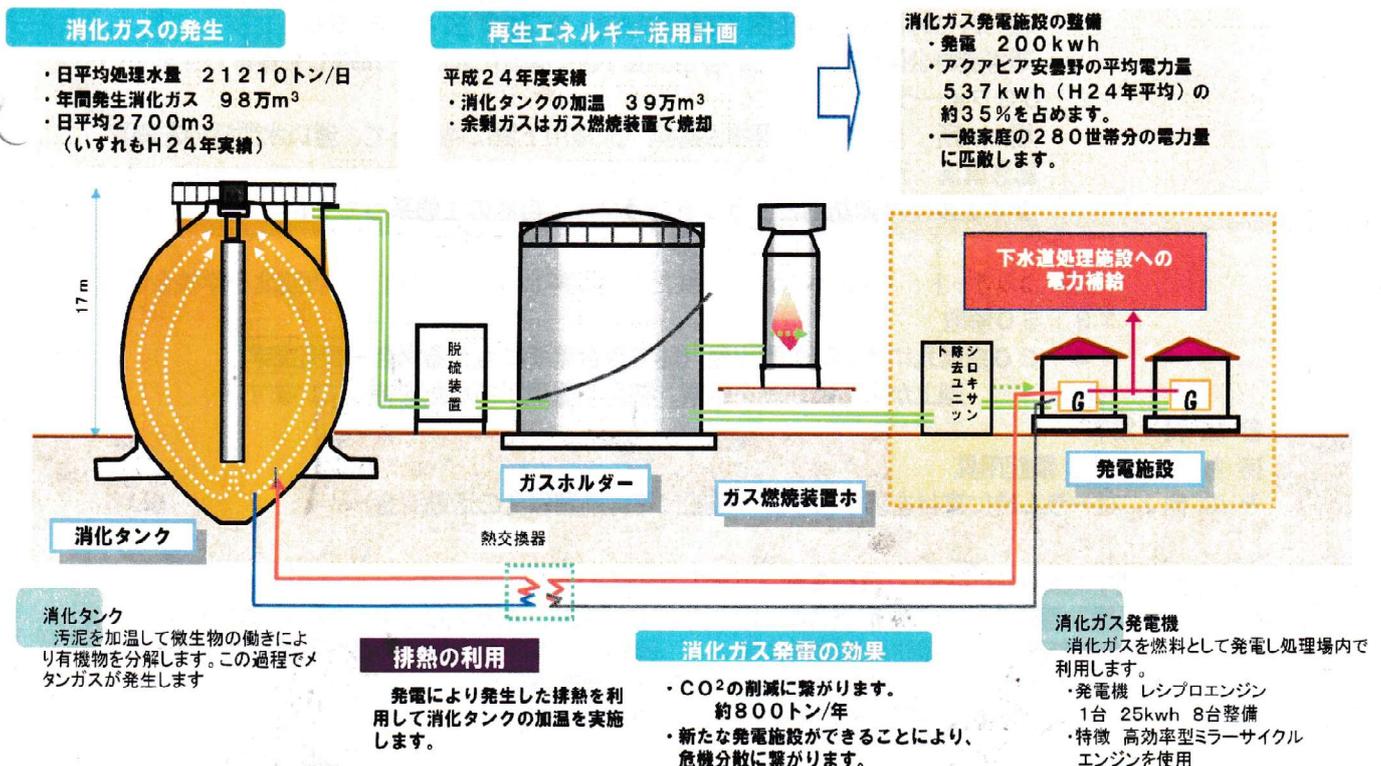
また、消化反応でメタンガスが毎日2,700m<sup>3</sup>発生しますが、これまでは約4割を消化タンクの加温に、残りは焼却処分をしてきましたが、安定したメタンガスが発生することから、再生エネルギーとしてメタンガス発電を行う事としました。

発電の課程で発生する熱を利用して消化タンクの加温ができ、全量を発電に回せますので200kwの発電が可能です。これは、現在の処理場で使用する電力の1/3に、一般家庭の280軒分に相当します。電力会社からの購入電力料減による二酸化炭素削減量は年間800トンとなります。



消化タンクに隣接して設置された発電機

- 【事業の概要】**
- メタンガスエンジン発電機 25kw × 8台 = 200kw
  - 年間発電量 約150万kwh
  - 総事業費 約2億6,700万円
  - 維持管理費用を控除しますと年間約1,400万円の経費節減となります。



# 第25回 諏訪湖チャリティーウォーク開催趣意書

NPO全国語学教育学会（JALT）信州支部 会長 有賀マアリー  
諏訪湖クラブ 会長 沖野 外輝夫

拝啓 立春を過ぎてからの雪、雪、雪。春の到来を待ちわびる日々。雪害にご苦労なさいている方が今なお大勢いらっしゃいます。心から見舞い申し上げます。

さて、国際交流と環境問題への意識の高揚を目指す「第25回諏訪湖チャリティーウォーク」のご案内です。25年前とは諏訪湖周の環境は信じられないくらい改善されました。子供たちが諏訪湖に身近にふれ学習する機会もどんどん増えました。様々な願いをもってスタートした諏訪湖チャリティーウォーク。毎回参加者は幼児から高齢者まで幅広く、人の繋がりを強く感じさせてもらえます。これもひとえに「人」と「その環境」を大事にしようというお気持ちで深い関心を寄せてきてくださった大勢の皆様方のご理解、ご協力のお陰です。4分の1世紀という長きにわたって、様々な形でお惜しみなくご協力ご支援くださったお一人お一人に今この場をおかりして深くお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

これは終わりではなく新たな出発点です。新しい世代や、毎回のように参加してくれた子供たちに未来を託していきたいです。身近な諏訪湖とか諏訪地域を大事にする意識は、広く私たちの地球をも大事に考える力となることでしょう。真摯な姿勢の若い学生さん達の姿はいつも輝いています。小さな子供たちへの最高のメッセージでなってきました。冬季オリンピック・パラリンピックの開催されたこの年、これからもみんなで夢をもち心を大きく羽ばたかせていきましょう。

開催詳細は下記をごらんください。環境の学習も、楽しく国際交流も、と欲張りなこの諏訪湖チャリティーウォーク、大勢の皆様のご参加をお待ちしております。是非ご家族、ご同僚の皆さんにもご案内ください。「人」と「人」の「温かい出会い」を楽しみにしつつ・・・



## 記

期 日：2014年5月3日（土）憲法記念日 雨天決行

集合場所：諏訪市片倉ふれあいなぎさ、野外音楽堂

受付時間：8：10～（予約はいりません。直接会場にご集合ください。）

行事時間：8：30開会式（諏訪市片倉ふれあいなぎさ、野外音楽堂）

コースA時計廻り徒歩（諏訪市豊田、岡谷方面釜口水門まで約8km）

コースB時計逆廻り徒歩（下諏訪町側・釜口水門まで約8.5km）

岡谷湖畔公園に到着したい各自昼食（遅くなった人はフォーラムでも食事できます。）

12：00フォーラム

場 所：釜口水門管理棟会議室（天竜川下流に向かって、釜口水門橋の左側）

記念講演：沖野外輝夫信州大学名誉教授

タイトル：「諏訪湖とどうつきあう？——自然の生態系って？」

すてきな賞品のでるお楽しみクイズもあります

コンサート：「明日へむかう子供たちの歌声」by 下諏訪町立下諏訪北小学校合唱部

13：50解散

14：20白鳥丸にて湖畔公園出発（船で集合場所にもどる場合—**乗船無料**）

湖上からも諏訪湖を観察。初夏の薫風があなたを待っています！

参加料：無料

持ち物：昼食、筆記用具

その他：フォーラム時に寄付を募ります。（乗船代等諏訪湖保全の活動資金）

以上

【主催】NPO全国語学教育学会（JALT）信州支部【共催】諏訪湖クラブ

【後援・協力】長野県諏訪建設事務所 信州大学山岳科学総合研究所 市民新聞グループ（7紙）

信濃毎日新聞社 諏訪東京理科大学 岡谷市下浜区 ANPI（長野県国際化協会）

諏訪市教育委員会 下諏訪町教育委員会 岡谷市教育委員会

【連絡先】金子 田美 〒392-0131 諏訪市湖南 6094 Tel:0266-53-7707

# 信州ネット SUWA の活動

—2014年3月1~2日開催イベント—

## 「みんなで自然エネルギーを、 見て、作って、食べて、聞いて、楽しもう」

宮坂 平馬

信州ネット SUWA の活動について、少し報告致します。  
信州ネット SUWA は、自然エネルギーを理解し普及しようというグループで、県内にある地域毎のグループの1つとして発足しました。長野県全域としては信州ネットがあり、この全域のグループを中心にして地域毎のグループは相互に情報を共有するネットワーク型の活動を行っています。

以前、諏訪湖クラブでは、沖野会長と諏訪東京理科大学教授谷先生（当時）を中心にして、終末処理場の屋上に太陽光パネルを設置して、処理場で使用する電気の一部をまかなったらどうかという提案をしていました。信州ネット SUWA では、当初これを主テーマの1つとして活動しました。最終的には、岡谷酸素太陽光発電所 SUWACO Labo さんが実行団体に決まり、市民での自然エネルギーの実現までには手が届きませんでした。構想の実現を見ることができました。

また、信州ネット SUWA では、講演会や自然エネルギー関連の映画を上映するなどの活動もしてきましたが、もう少し現実的な提案が出来ないかということで、長崎功さんの発案により、「自然エネルギーをみんなで、見て、作って、食べて、聞いて、楽しもう」というイベントを企画し、行うことが出来ました。その簡単な紹介をさせて頂こうと思います。

同イベントは、2014年3月1日、2日と、岡谷市東堀の柴宮館をお借りして行われました。1日は天候も小雨模様の状況で、この日はペレットストーブと薪ストーブの展示のみ、2日は、ウッドガス・ストーブのワークショップや遠峰徹さんの講演会や屋内での展示、そして葺木美咲さんのミニコンサートとWAIWAI バンドによるスチールパンの演奏、飲食の出店と盛りだくさんで、楽しいイベントが行われました。

ストーブの展示では、さいかい産業さんからペレットストーブ4種類、企業組合ストーブアートさんは薪ストーブ2種、ナチュラルフレームさんは薪・ペレット兼用のストーブ、ストーブ工房ヴェスタさんにはイタリア製

ペレットストーブを展示して頂き、8台の薪やペレットのストーブすべてで火を燃やし、見る事が出来たのは、なかなか壮観でした。まさに、実際に「見て」、「触れて（手をかざして）」炎を楽しむことが出来ました。

ストーブの展示で始めて伺ったお話としては、鋳物製

のストーブでもカラマツを燃やしかまわないという話でした。一番大切なことは、薪が十分乾いているかが大切とのこと、カラマツは1年で乾燥するが、広葉樹は、乾燥に2年掛かる。広葉樹は火持ちが良いので、薪として優れているが、乾燥が十分でないものを用いることが多く、かえって煙突が汚れていることが多いとのこと。また、薪を組み方は夏と冬では違えた方が良いとか、ストーブの専門家からいろんな興味深いお話を伺うことが出来、ストーブを囲んでのストーブ談義に花が咲きました。

ワークショップでは、中野さんと平出さんがウッドガス・ストーブの組立の指導を行い、参加者多数で御膳と午後に分けるなどなかなか盛況で、参加者からは楽しかったという感想や、次回はロケットストーブのワークショップをと、リクエストも頂きました。

屋外では、赤羽さんのカレーや、平出さんのお茶、丸高蔵の鯖の味噌煮缶の出展もありました。これも最も原始的な、普段は食品と呼ばれる自然エネルギーですから、一応この展示会でも場違いではないと考えました。

屋内展示では、スワテック建設（株）さんによる太陽光パネルや断熱の提案、（株）光変換光合成促進農法さんによる展示と生理機能のある植物の配布、さいかい産業さんのペレットストーブ、小坂さんのコロコロ電源、信州ネット SUWA、信州自然エネルギーパートナーズ、カラマツストーブ普及 LLP の展示などを行いました。

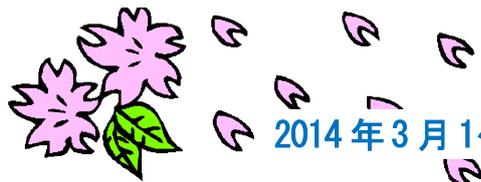
講演会では、遠峰徹さんによる「身近な省エネと自然エネルギーの活用」と題してのお話を頂きました。家庭における省エネについて、体系立っていても分かりやすいお話や、自然エネルギーについて生活者・利用

者サイドの視点からお話しを伺うことが出来ました。この内容については、56ページにもおよぶ資料なので、とても紹介しきれません。また講演をお願いしたいところ です。

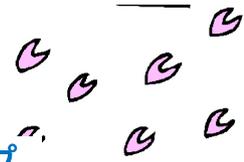
今回のイベントの中で異色なのは音楽でしょう。これも精神エネルギーと位置づけましたが、やはり場が明るく楽しくなるすばらしい効果があります。葦木美咲さんやWAI WAI BAND のみなさんのおかげでした。そんな訳で

音楽も次回イベントでも続けられたらと思いました。

参加者数は正確には把握できていませんが、頂いた名簿としては、スタッフを除いて29名。書いて頂いていない方もいるので、およそその倍、58名ほどの方は来られたのではと考えています。出店社としては8社、スタッフは27名でした。次回はさらに工夫し、もっと魅力あるものにできればと考えています。



## 2014年3月1~2日開催イベント スナップ



# 地域に飛び出す県職員

## ～地域に飛び出す公務員アワード受賞者インタビュー～

今年度初めて開催された「地域に飛び出す公務員アワード2013」において、全国からの多数の応募事例の中から、本県職員の高木保夫さん（花田養護学校勤務）がアワードを受賞されました。今回、編集部においてお伺いした内容を対談として掲載させていただきました。



<右端が高木さん>

■本日は、「地域に飛び出す公務員アワード2013」でアワードを受賞された高木さんにお話を伺います。

高木さんよろしくお願います。そして受賞おめでとうございます。ありがとうございます。こちらこそよろしくお願います。

■さっそくですが、「地域に飛び出す公務員アワード」を知っている方はそんなに多くなかったと思いますが、この賞への応募のきっかけや経緯を教えてください

昨年10月初旬、NSポータルへ掲載された県民協働・NPO課（以下「NPO課」）のお知らせによって知りました。このお知らせには、「①飛び出す公務員アワードが初めて開催されること、②プラスワンとしての地域づくり活動をより多くの人に知ってもらうことによって活動へ参加しやすい職場環境づくりをめざすこと、③それによって地域に飛び出す職員を増やす。」という、NPO課の小林忠司課長補佐のすっきりとわかりやすいメッセージに感銘を受けて、手を挙げました。

■全国の沢山の応募者の中から最高の賞（アワード）を受賞されましたが、受賞後の反響はいかがでしたか？

はい。一次審査がウェブ投票であったので、多くの県職員のみならず、友人・知人からお力添えをいただきました。この場を借り

地域に飛び出す公務員を応援する首長連合が、今年度、公務員が自らの時間を活用して、熱い思いで地域に飛び出し、住民と想いを共有しながら地域活動等で活躍している公務員を表彰する“地域に飛び出す公務員アワード”を実施しました。ホームページ→ <http://t-k-award.sakura.ne.jp/>

まして、厚く御礼申し上げます。

お陰様で、得票数上位10名に残り、二次審査へ進出できました。NPO課では、投票状況をNSポータルで逐次報じてくださったので、びっくりするくらい多くの仲間からお祝いのメッセージを頂戴しました。また、信毎、下諏訪市民、中日の各紙が受賞を報じてくださったことで、恩師や同僚、勤務先のご近所の方々、はたまた亡父の親友からもお祝いのメッセージを寄せていただきました。まったくもって、県職員冥利に尽きる思いでした。ありがとうございます。

### ■活動報告では「諏訪環境まちづくり懇談会」の活動は終了したとっていますが、どうしてそうなったのですか？

諏訪湖の汚染が顕在化しておよそ半世紀になります。その浄化は、日本の湖沼全体のシンボルの課題といっても過言ではありませんでした。幸い、諏訪建設事務所を中核とした、40年にわたる水質浄化の取り組みが大きな総力を迎えつつあります。これに伴い、地域住民の浄化活動も、当初から比べると変容してきました。

諏訪環境まちづくり懇談会（以下「まち懇」）は、「長野オリピックまでに泳げる諏訪湖にしよう！」を合言葉に発足し、様々な活動を重ね、おかげさまで勇気ある皆様、5回にわたり諏訪湖で遊泳いただくことができました。しかし、このまち懇は、2007年11月に閉会します。これは高齢化とマンネリ化を解消し、会員層を広げるための発展的なものでした。

### ■現在はどのような活動をされているのですか？

まち懇の活動は、現在「諏訪湖クラブ」が継承しており、ぼくは、そこで活動をしています。

ぼくは、2枚の名刺を、いつも持ち歩いています。本業の名刺と肩書が「諏訪湖クラブ理事」のものです。この名刺は、花田養護学校の印刷班が作成したものです。まちづくり同好の士に会ったときに、本業の名刺に加えて差し出せるのはうれしいですね。

### ■これまでの活動を振り返っての苦労は？

四半世紀前は、「あいつは県職員なのに、まち懇へ入っている」、「ちゃんと、年休取って活動してい



るのかやしい」なんて揶揄された時代でした。

そんな中でもまち懇では、環境まちづくりセミナーを5回開催し、年々行政との信頼関係が深まっていくことを感じましたね。

#### ■具体的にはどんな活動をしていてよかったことは？

ドイツからの講師の視察に、県のヘリコプターをお借りすることや、当時の土木部幹部職員が第3回日独セミナーに参画くださった英断などがありました。

#### ■活動をしていてよかったことは？

「多くの人に会いたいなあ」ーこれが長野県職員を志望した動機でした。公務員の喜びは、人が人として尽くせること。地域に飛び出すと、自分の役割が見えてきます。

「県職がいくら偉くっても、地域じゃぜったい認めねえから。地域では、ぺちゃんこだぜ」土日も関係なくグリーンツーリズムのセールスに飛び歩く某市の課長さんの一言が、発奮を促す生涯の杖言葉となり、そして地域に根をおろした生き方のベースになっていきます。

#### ■職員の中にも様々な地域活動をされている方も多いと思いますが、これから地域での活動に参加してみたいと考えている職員へのアドバイスをお願いします。

3つのヒントがありそうです。一つ目は、つなぐ人になることです。公務と県民のみなさまをつなぐ、県民のみなさま同士をつなぐ、そして県民のみなさまと専門家を結ぶことです。「あ！この人とこの人、つながるかもしれない！」ぼくもそう思ってたの触媒、くつつけ屋さんをしています。お引き合わせしても「つながる」のは10に1つの確率ですが、うまくいけば醍醐味です。ぼくは、諏訪のまちづくり酵母菌をめざしています。

二つ目は、地域への愛着と誇りに気づくことです。ぼくでしたら、さしずめ「父なる八ヶ岳、母なる諏訪湖」でしょうか。このことに気づけたことよって、この時代、この信州に生を受けたことに心から感謝できました。

三つ目は、一緒に汗をかくこと。県職員が評論家にとどまっていたのは、県民のみなさまとの連携は生まれません。一歩踏み出し、一緒に体を動かすことです。大変な作業や活動の後でも心地いい充足感と、仲間たちとの美味しいお酒を酌み交わす楽しみを味わいたいですね。地域こそ教師也です。



■最後にありますが、高木さんにはこれからやりたいことがあるとお聞きしましたが、教えていただけますか。

はい、ぼくはこんな夢を描いています。

それは、郷土の誇りを発掘するお手伝いをしたいと思っています。かつて、寺子屋数が日本一だった信州。先生の地位が高かった信州。ゆきあふ子<sup>2</sup>らの美しい信州。次世代の子どもたちが、長野県への愛着心を持ってもらえるようにと考えているもので「一校一自慢運動」と呼んでいます。これは、長野五輪から始まった活動で国際的に育った「一校一自慢運動」がベースとなっているもので、子供たちが、各学校で「自らの財産」、「歴史の財産」、「文化や伝統の財産」を洗い出すことから始めてほしいですね。それから、野外授業で調査をしましょう。おじいちゃん、おばあちゃんからの聞き取りなんでもいいですね。長野県の未来へのバトンタッチみたいですね。

また、こうして集めたそれぞれの自慢を、地域内の学校同士が交流を重ねることでよい部分をさらにプラス価値にしていく。プラス部分が多きぶん加われば、その学校が「地域の宝物発信地」になります。そんな活動の中で、ぼくら県職員もアシストできるのではないのでしょうか。県職員で培った能力を活かす場は様々なところにあると思います。その一つの場合として母校やお子さんを通して通っている学校があると思っています。

ぼくも含め、多くの公務員は地域へ飛び出したい願望をもっていると思います。これを応援してくださる今回のアワード関係各位に、深甚なる敬意と感謝の意を表します。

「地域に飛び出す公務員」は、まだまだスモールBかもしれませんが、近い将来に長野県職員の多くが仲間入りしてくださることを切に願っております。ありがとうございます。

■こちらこそ興味深いお話しをお聞かせいただきありがとうございます。夢の実現に向けこれからもご活躍ください。

<sup>2</sup> 「たかとほは 山裾のまぢ 古きまぢ ゆきあふ子等の うつくしき町」 田山花袋：大正5年（1916年）8月、高遠にある絵島の墓を訪ねた折に詠じました。今から百年近く前、田山花袋は、信州の子どもにこのような感想をもちました。『高遠風土記』笹本正治監修から引用。

## 身近な水環境を調べよう！

### － 「第11回 身近な水環境の全国一斉調査」 参加のお願い －

全国水環境マップ実行委員会 実行委員長 小倉 紀雄  
長野支部責任実行委員 沖野 外輝夫

「身近な水環境の全国一斉調査」は市民グループと国土交通省・(財)河川環境管理財団が連携し、実施しています。

本調査は、「パックテスト」という簡単な調査キット(無償で配布)を用いて、全国で一斉に調査を行い、その調査結果をわかりやすいマップとして表現することで、身近な水環境の様子が他地域と比較して良くわかります。

また、調査を10年20年と継続することで、この調査を通して水環境に関する市民の理解と関心が、いっそう高まることも期待されます。子供から大人まで大勢の皆さまの参加申し込みをお待ちしています。

詳細な調査結果は、本調査専用ホームページ(<http://www.japan-mizumap.org/>)や国土交通省河川局のホームページで公表されています。

調査日時 2014年6月8日(日) ※世界環境デー(環境の日)に近い日曜日

測定項目 気温、水温、COD、その他(任意)

測定方法 取扱説明書に基づき、調査キットにて測定

(調査キットは参加申込者に毎年5月頃事前に配布予定)

参加ご希望の方は 上記ホームページから参加申込用紙をダウンロードの上

2014年3月10日までにE-mailまたはFAXで申し込みができます。

全国一斉調査 お申し込み先

FAX : 042-327-3169 E-mail : mizutomidoriken@ybb.ne.jp

なお、ご不明の点は下記の信州水環境マップ・ネットワーク事務局宛てにご一報ください。また、ご記入いただいた個人情報は今回の調査に関する連絡以外に、ご本人の許可なく使用いたしません。

信州水環境マップ・ネットワーク事務局 沼田 清

〒389-0206 長野県御代田町御代田 2531-41-3-302

電話 0267-32-8608 携帯 090-9801-6671 E-mail : ecolabo@f4.dion.ne.jp

Web : <http://shinsyu-mizumap.midorinooka.net/>

2013年 第10回身近な水環境の全国一斉調査	
長野県版マップ 調査地点 217ポイント	
番号	調査グループ名
1	飯水自然調査研究委員会
2	NPO法人 みどりの市民
3	エコラボ クラブ
4	グリーンヒル友の会
5	チーグル軽井沢
6	ほっとスペース
7	株式会社 環境アセスメントセンター北信越支社
8	軽井沢これぞ?いいん会
9	戸隠地質化石博物館
10	小諸水環境研究会
11	信州大学松本キャンパス環境ISO学生委員会
12	諏訪湖クラブ
13	須崎市 生活環境課
14	水環境チーム
15	菅平ナチュラルリストの会
16	千曲川水生昆虫研究会
17	長野県地球温暖化防止活動推進員
18	長野市水環境研究サークル
19	湯川 水の会
20	矢作川環境技術研究会
21	他に個人参加は6名

### 【2013年度全国水質一斉調査講評】

2013年度全国一斉水質調査に参加された皆様、ご苦労様でした。昨年度と同様に長野県下の測定地点の結果を一つの地図にまとめました。自身が測った地点の結果を他の地点と比較し、自分の身の回りの水環境に関心を持ち、その状況を判断する参考として下さい。

地図を見るとお分かりのように、今年、長野県下で測定された217地点中の48%が水質良好でした。これは昨年の測定結果54%に比べるとやや悪化の傾向ですが、天候の差を考えればほぼ同じと考えて良いでしょう。しかし、水質要注意の赤いマークは今年度も長野市周辺に集中しているのが気になります。一方、以前は赤マーク、黄マークの見られた諏訪湖流入河川は昨年同様に、改善傾向が続いています。諏訪湖流域市町村に住む人たちにとっては朗報ですが、昨年よりも悪化している河川もあり、なお一層の努力を期待しています。これからは長野県の水環境をさらに良好に維持していくためにも日常生活での気配りが重要であることを地図の中から読み取って下さい。今年は、長野県下の主な流域である木曾川水系、犀川水系、さらには裾花川など、支流の測定地点が増え長野県域全体を比べることができるようになったのも朗報です。

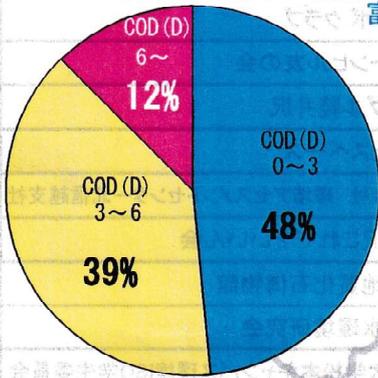
今年の観測日前は長野県下も全体的に暑く、地域的には降雨量の極端な違いがありました。測定時の水質は測定前の天候や上流の状況に左右されます。人間活動の盛んな地域では一日の時間帯によってさらに水質が大きく変わります。水質測定の体験を機会にさらに詳しい水質の測定や川との様々な触れあいを心がけてはいかがでしょうか。自分たちが住んでいる環境の状況を自分自身で測ることにより、毎日の生活が身の回りの環境に配慮したものになることを期待しています。今年も全国一斉に水質調査ができたのも事務局を中心とする関係者と各地域の参加者の誠意と努力によっています。来年度にはさらに多くの地域で測定仲間が増えるよう皆様のさらなるご協力をお願いします。(沖野外輝夫記)

# 2013 長野県水環境マップ

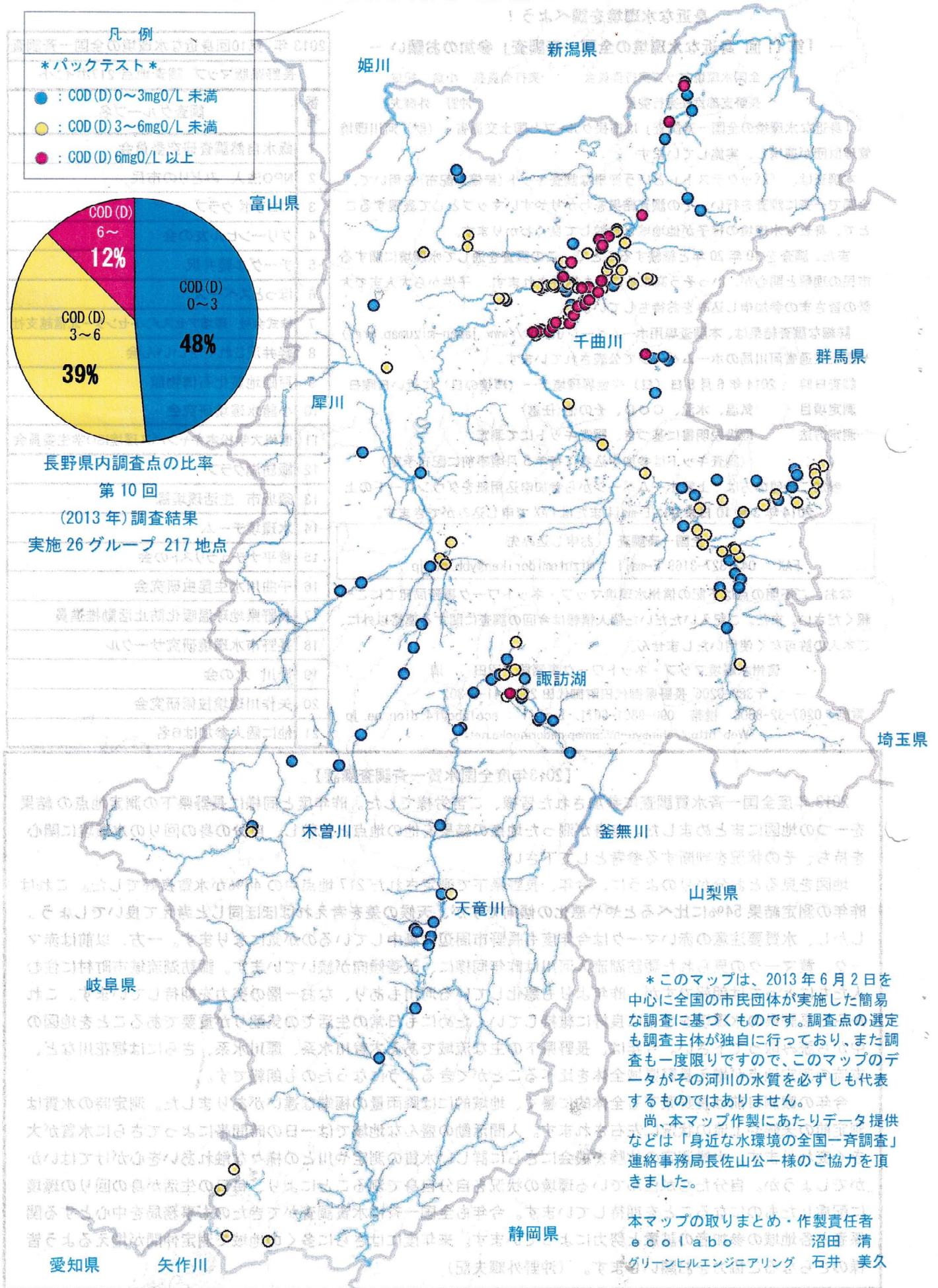
凡一例

\*バックテスト\*

- : COD(D) 0~3mgO/L 未満
- : COD(D) 3~6mgO/L 未満
- : COD(D) 6mgO/L 以上



長野県内調査点の比率  
第 10 回  
(2013 年) 調査結果  
実施 26 グループ 217 地点



\*このマップは、2013年6月2日を中心にして全国の市民団体が実施した簡易な調査に基づくものです。調査点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

尚、本マップ作製にあたりデータ提供などは「身近な水環境の全国一斉調査」連絡事務局長佐山公一様のご協力を頂きました。

本マップの取りまとめ・作製責任者  
eco labo 沼田 清  
グリーンヒルエンジニアリング 石井 美久

## 平成26年度 諏訪湖クラブ定期総会のご案内

日時 5月25日(日) 13:30~

会場 ベルファイン橋場(諏訪市上川二丁目 tel:0120-918-482)

総会 13:30~14:30



### 次第

#### 【報告事項】

- (1) 報告第1号 平成25年度 事業報告
- (2) 報告第2号 平成25年度 会計報告

#### 【審議事項】

- (3) 議案第1号 平成26年度 事業計画(案)
- (4) 議案第2号 平成26年度 予算(案)
- (5) 議案第3号 平成26~27年度 役員について

#### 【その他】

講演1 15:00~16:00

講師 中島 恵理 氏

演題 「諏訪から切り開く自立した持続可能な地域社会形成に向けて」

講演2 16:00~17:00

講師 井上 祥一郎 氏

演題 「森里湖連携の技術—シジミの目から—」

懇親会 17:30~ ベルファイン橋場 会費5,000円

※出欠につきまして同封のハガキにて5月17日(土)までにご返信下さい。

なお、ご欠席の場合は、委任状欄に必要事項をご記入捺印をお願いします。

※当日ご出席の方は、平成26年度年会費(大人3,000円・大学生500円・高中小学生100円)

をその場にてお納めいただけますれば幸甚です。

当日ご欠席の方には、後日総会資料とともに会費納入のご案内を送付させていただきます。



諏訪湖畔 桜並木

## 理事会報告

- 第63回 日 時：H25 11月17日（日） 午前10時～12時  
出席者：沖野、金子（田）、宮坂（平）、宮原、市川、八幡、五味  
内 容：  
1. 信州ネットSUWAから「トヨタ財団地域活動」助成に応募の件  
2. 諏訪湖クラブから「東京ガス環境おうえん基金」の「パワーアップおうえん」助成に応募の件  
3. 諏訪湖漁業協同組合からの講演会参加依頼  
「水辺の生物と環境」―諏訪湖の自然再生に向けて―  
4. 諏訪まちアートフォーラム「おしゃべりカフェ」の開催について  
5. 諏訪湖クラブと信州ネットSUWAの合同忘年会について
- 第64回 日 時：H26 12月15日 拡大理事会（忘年会）18:00～  
会 場：じつや亭（諏訪市湖岸通り）  
出席者：沖野、金子（田）、長崎（政）、奥原、松井、井上、市川、林、五味、長崎功、宮坂（清）、宮坂（平）、宮原、中澤、片庭、河手、佐久、船瀬、高木  
内 容：近況報告（信州ネットSUWAとの合同開催）
- 第65回 日 時：H26 1月26日（日） 午前10時～12時  
出席者：沖野、金子（田）、宮原、市川、八幡、五味、宮坂（平）  
内 容：  
1. 26年度の総会の日程  
2. 2013年の「身近な水環境の全国一斉調査」の調査報告  
3. 信州ネットSUWA主催のイベント  
「みんなで自然エネルギーを楽しもう」について  
4. まちづくり発信拠点について「すわまちくらぶ（仮称）」の立ち上げについて
- 第66回 日 時：H26 2月16日（日） 午前10時～12時  
出席者：沖野、金子（田）、長崎（政）、宮坂（平）、八幡、五味、長崎（功）、高木  
内 容：  
1. 総会の内容について  
2. チャリティウォークについて  
3. 信州ネットSUWA 拡大交流会（H26.3.1-2）について  
4. その他
- 第67回 日 時：H26 3月16日（日） 午前10時～12時  
出席者：沖野、長崎（政）、宮坂（平）、金子（田）、八幡、宮原、（五味）  
内 容：  
1. 総会での講演依頼（井上祥一郎氏、中島恵理氏）確定、タイトル、内容は後日  
2. 役員人事について  
3. ニュース原稿依頼
- 第68回 日 時：H26 4月20日（日） 午前10時～12時  
出席者：沖野、金子（田）、長崎（政）、八幡、宮坂（平）、宮原、長崎（功）、高木  
内 容：  
1. 総会について  
2. チャリティウォークについて  
3. その他



企画・編集・発行 諏訪湖クラブ事務局  
TEL/FAX 0266-58-0490  
E-mail e-suwa-info@lake.gr.jp

諏訪湖クラブニュース

No. 20